

単独。ナイトハイクを覚悟して歩いていたが予想以上に分かりづらく、地図アプリを見ながら進むも何度も行ったり来たり。やがて力尽き、救助隊を呼び事なきを得た。



救助地点

大垂

高尾山

高尾ビジターセンター

ナイトハイクになるタイミングが思った以上に早く、途中から急ぎ足になってしまった。入戸山を過ぎ日が暮れる状態になってから一気に暗くなり心細さを感じた。真っ暗な山の中はこんなにも寂しいと充分過ぎるほど味わっている。歌を途中から歌いながら進む、地図を見てGPSに狂いが生じてわかりにくくなる事もあると思い知る。ここで合っているのかと何度も確認したりスマホを握りしめて移動、何度も行ったり来たりしやがて力尽き、救助隊を呼ぶ。

まさかここまで迷うとは知らずにいた。はじめに進んだ道は途中から狭くなり危険を感じてやめた。次に行った道は林道になり高尾山とは逆の方向の為やめた。どこで迷ってしまったのか？冷静に判断出来ず、また高尾山に行っても行くまでの険しい階段を登り、また降りる事が面倒になってしまった。大垂水バス停まで戻りヒッチハイクしようと思っていたが辿り着く事が出来ないもう先へ進む事も戻る事も出来ない、体力はあるが精神が駄目になっていた。（HP参照）

道迷いの心理は理解できないことが多い。目的地が不明だが、あと少しで高尾山に到着するところまで来ている。救助隊を呼ぶくらいなら比較的安全な高尾山を目指すのも一つの方法だと思うのだが、道迷いの心理はそれを許さない。「面倒」というキーワードは遭難への近道だと思ってほしい。